

谷口 P 物質班-社会経済班連携会議 No.3

日時：3月30日(月) 10時~16時

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス，ボアソナードタワー24階人間環境学部会議室

*キャンパス：JR中央線，市ヶ谷駅と飯田橋駅のほぼ中間

<http://www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/ichigaya/access.html>

キャンパスで最も高いビル

<http://www.hosei.ac.jp/hosei/campus/annai/ichigaya/campusmap.html>

青いエレベーターに乗り，24階で降りたそばの会議室

出席：

金子、藤倉、松本、田中、小野寺、梅沢、細野、大川、齋藤、安元、谷口、豊田、清水

趣旨：都市における窒素汚染について、科学的データをもとに、社会経済的視点も加えて議論する。

プログラム：*個別発表は3-5分の質疑時間を含む。*コメント・議論はコメンテータのコメントを中心に全体で議論する。

10:00 - 10:15 はじめに - これまでの課題と会議趣旨、メンバー確認 - 小野寺真一(広島大)・金子慎二(広島大)

10:15 - 10:30 コメント・議論 - プロジェクトの方向性と連携会議の意義 - 谷口真人(地球研)

[部：河川の窒素流出量変動]

10:30-10:40 物質班の方向 流域窒素負荷変動評価に向けてのモデル解析へ - 小野寺真一(広島大)

10:40 - 10:50 GISベースの窒素負荷量の推定へ向けて 清水裕太(広島大)

10:50 - 11:10 堆積物中の窒素、炭素プロファイルの都市間比較 梅沢 有(長崎大)

11:10 - 12:10 コメント・議論 - 社会経済学視点、その他 - 藤倉 良(法政大) 金子慎二(広島大) 今井 剛(山口大) 田中勝也(滋賀大) 松本 亮(北九州大)

昼食 休憩

[部：地下水汚染]

13:20 - 13:30 物質班の方向 地下水中の窒素蓄積量の評価へ向けて - 小野寺真一

(広島大)

13:30 - 13:50 地下水中の窒素汚染特性 梅沢 有(長崎大)

13:40 - 14:00 コメント・議論 - 窒素起源、脱窒、浄化について - 細野高啓(秋田大)、齋藤光代(愛媛大)、大川浩一(秋田大)

14:00 - 15:00 コメント・議論 - 社会経済的な視点、その他 - 今井 剛(山口大)、藤倉 良(法政大)、松本 亮(北九州大)、金子慎二(広島大)、田中勝也(滋賀大)

15:00 - 15:20 コメント・議論 - 地下水モデル、GIS・DB - 安元 純(地球研)、谷口真人(地球研)

15:20 - 16:00 全体総合討論 - 次回への宿題

谷口：イントロ

@班の連携の推奨 統合化

@豊田さん：事務局に入る DB作成 15指標

@GISグループ

水モデル

物質モデル

熱の指標化

@STOTEN出版、台湾シンポ、論文企画へ

清水：GIS 負荷モデル

原単位の問題 新藤さんのデータをスケールダウンして使うのでは(梅沢)

窒素発生量の出力

@まだ難しいかな...

梅沢1：

海域堆積物からの復元

都市の浄化能力？

同位体比 = 人為起源 N、海域生産量増加 = C も

大坂 マニラ、ジャカルタ、ベースの値はナチュラルであり、要はいかにイニシャルから増加したが重要(小野寺)

原単位を国単位は簡単 都市にダウンスケールは大変(金子)、活動量の評価だけで済むのでは(藤倉)、新藤モデル解析を利用した方が楽(梅沢)

松本さん：人間排出系 N の負荷の変化 5年単位、50年程度

大阪水系：淀川流域のデータ 大阪大学もある

梅沢 2 :

窒素濃度、窒素同位体比

台北：降雨の濃度の影響はあまりない

化学肥料と生活排水の混合

金子：ジャカルタ = 過去 5 年間のモニタリングデータある。データ管理者を地球研に 3 ヶ月後招聘して、データを作ってもらおう。

細野：硫黄の同位体も同様の傾向を示す

藤倉：全体的に環境基準を超えないのはインプットが少ないのか？ 実際に GDP は低いので原単位は少ない（梅沢）

斎藤：1km 流下の過程で 5% 程度

金子：地下水の水質が

地下水：ジャカルタで大腸菌汚染 NO₃ が脱窒される

安元：モデルの計画